

## イタリアのコミュニティ協同組合

三重大学名誉教授・招へい教授

石田 正昭

1 この九月、イタリアの社会的協同組合、それも  
2 農業農村を基盤にする社会的協同組合の調査を行  
3 った。数多くの組合・連合会を訪れたが、最も歓  
4 待を受けたのが、エミリア・ロマーニャ州・トス  
5 カーナ州界のアペニン山脈内にあるアグリツリー  
6 ズモ「騎士団の谷」という、集落（スッチーズ）  
7 を単位とする社会的協同組合だった。

8 スッチーズはレッジョ・エミリアからバスで一  
9 時間半、さらに送迎車で一時間もかかる標高九九  
10 八メートル、人口百十八人の小さな山間集落。中  
11 世の時代に領土監視団の役割を果たしたことから、  
12 組合名を「騎士団の谷」とした。集落の凝集性が  
13 高いのもその歴史によるとされる。

14 アグリツリーズモを名乗っていることからもわ  
15 かるように、主な事業は、ホテル、レストラン、  
16 バール（軽い飲食店）、直売所、牧場（羊）、羊の  
17 チーズ製造、太陽光発電などで、登山者のための  
18 ビジットセンターの役割を果たしている。社会的  
19 協同組合（B型）は、労働者五人のうち二人が身  
20 障者（軽度）であることによる。

21 出資者は三三人。組合員でないのは特別の事情  
22 がある家だという。構成員は労働者組合員が二人、  
23 資金援助組合員が三人、ボランティア組合員が二  
24 八人。出資金として十五万ユーロを集め、一九九  
25 一年に設立された。

26 よく知られるようにイタリアは労働者協同組合  
27 が発達している。その労働者協同組合から社会的  
28 協同組合が派生し、今また社会的協同組合からコ  
29 ミュニティ協同組合が派生しようとしている。制  
30 度的には社会的協同組合法に従っているが、設立  
31 目的に照らすと、新たにコミュニティ協同組合法  
32 を求める必要があるからだという。

33 われわれは、そのプロモーションビデオの撮  
34 影チームと地元紙記者からインタビューを受けた。  
35 プロモーションビデオの製作は連合会（レガコー  
36 プ）の企画によるもので、全国各地に同様のコミ  
37 ュニティ協同組合をつくろうとしている。

38 二日間の滞在で、強烈な印象として残っている  
39 のは次の二点である。

40 一つは地域リーダーの存在。キーマンはスッチ  
41 ーズがあるラミゼート村の村長（酪農家）、協同組  
42 合の理事長（測量士）、副理事長（協同組合金融機  
43 関ユニポール職員）、マネージャー（騎士団の谷の  
44 職員）の四人。二日間にわたってわれわれにつき  
45 あってくれた。なかでも特筆すべきはマネージャ  
46 ーで、彼は小学生の送迎車運転、チーズ製造、レ  
47 ストラン業務など、朝六時から夜一〇時まで「何  
48 でもやります」精神で働いていた。

49 もう一つは、この組合の事業が自然（アペニン  
50 山脈）とその自然が与えてくれる恵み（観光、き  
51 のこ、羊のチーズ）を一〇〇%活かした取り組み  
52 を行っていたこと。食文化の堅持が地域社会の健  
53 全な維持に直結している。また、どこにもいるだ  
54 ろう障害者の社会的包摂も見逃せない。物乞いの  
55 多いイタリアであるが、金銭を与えるだけが救済

56 ではないことを知った。 (いしだ まさあき)

57

58